

うめきた2期区域における「みどり」と中核機能のあり方

<背景・ポテンシャル>

関西の中核となる都心の形成

- ・大阪駅周辺地域は一日乗降客数250万人の西日本最大の交通ターミナル
- ・先行開発区域の「ナレッジ・キャピタル」をはじめ、業務・商業の一大集積地として関西経済を牽引

「アジアのゲートウェイ」としての機能強化

- ・関空に直結するJR東海道線支線地下化、なにわ筋線（検討中）により「アジアのゲートウェイ」としての機能が飛躍的に強化

大阪・関西の強み

- ・けいはんな、彩都などを拠点に先端産業の環境・エネルギー、医療・バイオ分野で主要都市間の連携
- ・大学、専門・研究機関が広範に立地
- ・大阪に加え京都、奈良と近接、日本文化を体感できる強み、インバウンド観光も急伸
- ・最大級の中小ものづくり企業の集積

国家戦略特区（大阪府・市提案）
-世界に打ってでる、世界を呼び込む-

- ・世界水準のビジネスや生活の基盤となる環境を整備
- ・日本が強みを有する医療等の分野でのイノベーションの創出

<まちづくりへの要請>

都市と自然の共生のまちづくり

- ・都市における自然との共生が命題
- ・近年の大規模開発でも都市と自然の共生をテーマとした取り組みも

防災・環境負荷低減のまちづくり

- ・南海トラフ巨大地震等大規模災害への対応、安心・安全な都市空間
- ・地球環境やエネルギー問題への対応

<関西・うめきたのポテンシャルを活かした中核機能のあり方>

西日本最大のターミナル地区、関西の中核拠点のポテンシャルを活かす

- ・梅田地区の高度な都市機能の集積に加え、関西圏の主要都市や関空をはじめ拠点と直結する拠点性、アジアのゲートウェイの機能を活かし、関西の発展に寄与する都市機能を導入

「ナレッジ・キャピタル」との連携、さらにはその機能を進化・発展させる

- ・多くの人々が集まることを活かし、先行開発区域の「ナレッジ・キャピタル」との連携、さらにはその概念や機能を進化・発展させたイノベーション創出機能を導入

<まちづくりへの要請に対応した都市環境創出のあり方>

都市における新しい「みどり」のあり方を提示し、大阪の文化・魅力を発信する

- ・都心における広大な更地を活用して、これまでの都市づくりのパラダイムを超えた、新しい都市と「みどり」のあり方を提示し、大阪の新しい文化、魅力として発信し世界にアピール

国際都市大阪にふさわしい都市空間の創出のトリガーとなる

- ・うめきたの開発の効果を地区内にとどめることなく、周辺地区にも波及させることにより、大阪の都市環境の改善、魅力の向上を図り、世界都市にふさわしい世界水準の都市空間の創出のトリガーに

大規模災害にも対応できる強靱でしなやかなまちをアピール

- ・大震災の経験を導入し、うめきたが大規模災害時でも速やかに復旧できる強靱さとしなやかさを備えたまちであることを世界に強く訴える

<中核機能の基本方針>

多くの人が集いやすく、関西の各拠点との結節点であるポテンシャルを最大限活かし、資本・技術や人材を集積、世界に求められる新たな価値を創造・発信する

新産業創出（例：健康・医療、環境・エネルギー等）

グローバルかつ今日的な課題に新しい解決策を提示し、日本の経済成長を力強く牽引

国際集客・交流（例：MICE・文化創造・発信等）

世界から人々をうめきたに集め、ここから関西の各都市・各拠点にビジネスや観光等を波及、展開

知的人材育成（例：連携大学・大学院、国際化教育等）

交流を育みながら、イノベーションを創出する源泉である創造的な人材を育成、輩出

<「みどり」の基本方針>

都市と人間、自然の新しい関係性を構築し、比類なき魅力を備え、都市の文化として創造・発信する、新しいまちづくりの空間と概念を導入する

「みどり」の役割

- ① まちの基盤となり、次代に受け継ぐ資産となる「みどり」
- ② 使いこなしによって多様な活動を生み出す「みどり」
- ③ 成長しながら、周辺地域へ進出、波及効果を生み出す「みどり」

「みどり」の空間形成

- ① 斬新で質の高い景観を創る「みどり」
- ② メッセージ性のある「みどり」
- ③ 「みどり」の成長など時間軸を組み込んだデザイン

配置・規模

「地上のまとまった『みどり』と、「建築物と一体化し地上と連続する『みどり』」を連続させ、「みどり」を2期区域全体に展開する

ポテンシャルの高い貴重な空間を最大限活かせるよう、都市機能と「みどり」が共存したまちづくりをめざす

「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

「みどり」が創造する文化、価値や、その比類なき空間の魅力が、世界から人や資本を呼び込み、「イノベーション」を創出する原動力となる